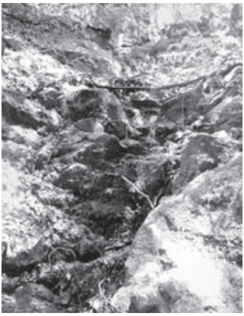
森林レンジャーがゆく（3）

自然の見所探し

日ごろ私たち森林レンジャーは、あきる野市内の自然豊かな地域で野生生物の調査、尾根道や登山道などの整備、滝や巨木などの地域資源の見所調査などを行っています。森林レンジャーの活動の中で私がもっとも力が入るのは、新しく自然の見所を発見するため、山や沢の奥地に分け入る調査です。今回この自然の見所発掘調査の一部を日誌形式で紹介します。



○6月2日快晴、今日はあきる野市と檜原村の境界にある中山沢の支流の1つ「オオカミ谷」の調査だ。上流には無名の滝が有るとか無いとか。とにかくひたすら沢を登り、滝の存在を確認しなければ。沢沿いに作業道があるが、足元の岩が苔に覆われよく滑る。おまけに途中からは藪が茂り容易に前に進めない。しかし、このような難所であればあるほど森林レンジャーの表情は活き活きとし、体からは躍動感がみなぎる。登り始めてから4時間、作業道らしさは消え失せ、最早完全なる沢登り状態。途中、石積みの砂防堰のようなものを発見したが、滝にはまだ遭遇していない。徐々に沢を登るのも厳しくなり、沢の水量も減り始め、上流に滝の気配が感じられない。今回は調査中止を決断し帰路に着くことに。

○6月3日快晴、オオカミ谷の再調査だ。前日のオオカミ谷調査のGPSデータを確認したところ、どうやらオオカミ谷ではなく中山沢本流を調査していたようである。中山沢にあるオオカミ谷の支流入口を見落としたことが調査失敗の一因であるようだ。そのため今回の調査では、確実にオオカミ谷上流の滝を確認したい。オオカミ谷の支流入口を探して下流から調査する班、前日のルートを登ってオオカミ谷上流から調査する班、この2班編成で調査を開始。途中、トランシーバーで連絡を取り合いながら確実にルートを攻めることで無事オオカミ谷の滝の発見に至る。何段にも連なる苔むした岩の先に水量はわずかではあるが全長10メートルぐらいの滝がそこに存在した。

森林レンジャーあきる野　佐々木優也